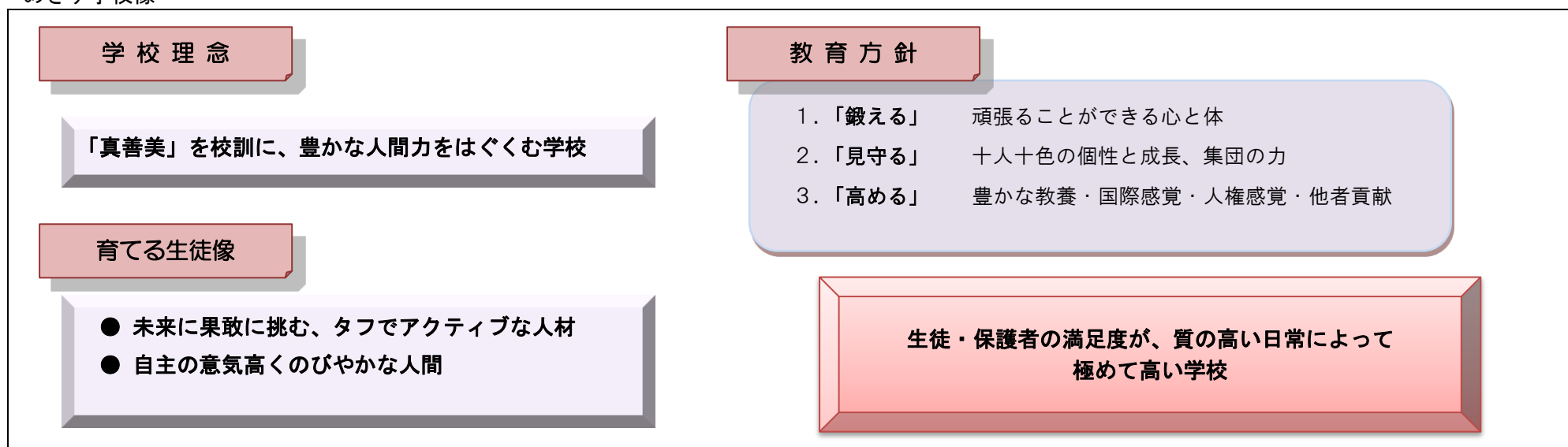
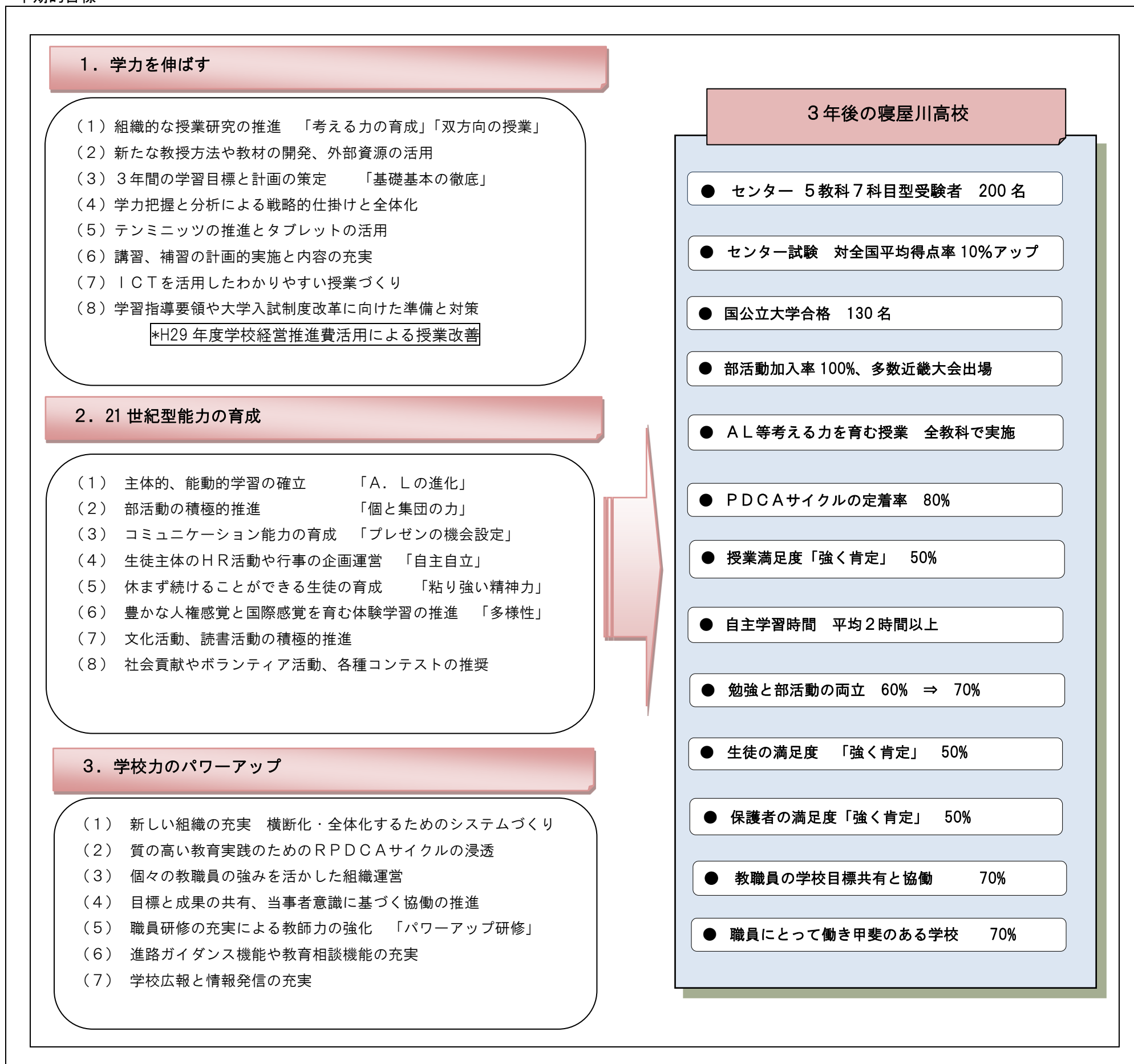


## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像



## 2 中期的目標



学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【生徒編】</b></p> <p>○質問全 15 項目のうち「①そう思う、②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した生徒が 80%を超えた質問は、今年度は 9 項目 (H28 は 10 項目) だった。「部活動に対する意欲」が 80%を超えた一方「命の大切さ・人権」「寝屋高生として誇り」に項目が 80%を下回ってしまった。</p> <p>人学習等について、体育館工事等の都合で当初計画より変更となり系統性をやや書いたところがあったことが考えられる。しかしながら、人権学習はキャリア教育とともに生き方の根幹となることから、3年間を見据えた計画を寝屋川高校としてのカリキュラムにしっかり根付かせる計画が必要である。</p> <p>○中でも「入学してよかったと満足」について強く肯定した生徒が 56% (H28 55%) 超え、昨年度に引き続き上昇傾向であるが、学年による差異が気になるところである。様々な学習活動や生徒が自己実現できる機会を重視する教育方針の徹底をさらに進める必要がある。</p> <p>○強く肯定した生徒が 30%以下であった項目は、「教育方針・教育計画の分かりやすさ」(29%)、「健康の保持増進・安全対策」(24%)、「部活動と学習の両立」(25%)である。昨年度は、「健康の保持増進・安全対策」「部活動と学習の両立」がともに 23%で、「計画的学習」が 29%となっている。</p> <p>「計画的学習」については、上昇傾向にあり、従前よりの授業改善等の効果が表れつつあると考える。一方、健康教育については様々な取り組みを行っているが、防災教育等安全面等さらなる工夫が必要である。</p> <p><b>【保護者編】</b></p> <p>○全 15 項目のうち「①そう思う」と 30%以上の保護者に強く肯定してもらえた項目の数が 10 項目 (H28 8 項目)。H26 年度は 5 項目であったことに比べると成果を上げている。</p> <p>○最重要事項である「入学させてよかったと満足している」という質問では、強く肯定が 55%(H28 58%)でやや減少しているが、肯定ではやや増加している。今後とも今まで積み上げていった改善や教職員一丸となった指導を粘り強く続けていく。</p> <p>○強く肯定が 20%未満の項目は「施設設備・学習環境」1 項目となった。しかし、「学習指導」については 20%と楽観できない結果である。引き続き改善策を講じていく。</p> <p>○「保護者の期待や願いに応える」の肯定が 92%になるなどありがたい評価をいただいているが、これにおごらず引き続き生徒一人ひとりの自己実現を大切にす取り組みを進めていきたい。</p> <p><b>【教職員編】</b></p> <p>○「そう思う」「どちらかと言えば」を合わせた肯定的回答が生徒の回答同様「人権教育」低下が顕著だった。このことは重く受け止め早急に改善を図りたい。</p> <p>○「指導内容や指導方法の工夫・改善に努めている」という質問に対しては 98%が肯定するという高い数字となっている。引き続き授業研究の取り組みを進めていく。</p> <p>○</p>	<p><b>【第 1 回】</b> 日時 平成29年5月26日(金)14:00～15:00 於：校長室 出席者 委員：4名、事務局：校長、教頭、事務部長、首席2名</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>会長の選出 学校協議会実施要項第四条に基づき選出</li> <li>協議</li> </ol> <p>(1)平成28年度の教育活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Classiを活用した、2年生全員のタブレット使用(71期生)</li> <li>プロジェクトチームを中心に、タブレットの活用方法を検討中 各HR教室配置のプロジェクターと合わせて、授業力の向上を図る</li> </ul> <p>(2)平成29年度の教育計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「生徒一人ひとりを大切に」が重要課題</li> <li>修学旅行について →現1年生(72期生)から12月実施、海外(ベトナム)、国内(東京方面)</li> <li>府教育庁学校経営推進進費支援(1次審査とプレゼンで府内15校の支援校の選ばれた)によるHR教室へのプロジェクター設置を中心とした授業改善について。高い潜在能力を持ちながら自信がなく、自分で限界を作っているタイプの生徒を伸ばしたい</li> </ul> <p><b>【第 2 回】</b> 日時：平成29年10月27日(金)14:00～15:30 於：校長室 出席者 委員：5名 事務局：校長、教頭、事務部長、首席2名、指導教諭</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>協議</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>修学旅行：71期生のベトナム、東北修学旅行を説明</li> <li>進路より：昨年度からの変更点等説明。3年保護者対象進路説明会を7月から4月に。2年大学説明会、1年テーマ別模擬授業(9月)を、業者をはさまず直接大学と交渉し、より生徒のニーズにかなったものとしたなど。</li> <li>今後の取り組みについて、70期生3年進路実現に向けて、71期生2年タブレット導入、教員の授業力向上に向けて公開研究授業、新テストへの対応、国際交流ウィーク、来年度選抜学力検査 数学をB問題にし基礎基本が身についた生徒を受け入れて鍛える等説明</li> <li>各委員より提言</li> </ul> <p>学校協議会からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新校長が新たな取り組みをしていることを実感した。この流れを進めていただきたい。</li> <li>プロジェクターなどの ICT をどうクリエイティブに使いこなすか、アイデアと実行力が求められる。</li> <li>将来に対するものの見方、考え方がしっかりしていれば、判断力の向上が図れる。</li> <li>進学面を伸ばすことと人間的な成長を図ることの両立は大変なこと。</li> <li>社会の現場では、次を考えられる人材が求められている。</li> <li>アクティブラーニングで生徒に話し合いをさせれば良いというものではない。逆に国語力が低下していないか。</li> </ul> <p><b>【第 3 回】</b> 日時：平成29年10月27日(金)14:00～15:30 出席者 委員：5名 事務局：校長、教頭、事務部長、首席2名、指導教諭、教員2名</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>授業見学(初任者教員)</li> <li>協議</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>29年度「学校教育自己診断」について説明</li> <li>進路指導、その他について説明</li> </ul> <p>学校協議会からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断で、生徒、保護者の「寝屋川高校でよかった」の数値が高いことは喜ばしい</li> <li>行事と勉強の切り替えができています</li> <li>学習指導について、今後の入試改革を考えると、指導法を変える必要あり</li> <li>学力向上の満足度について、保護者の数値が低い原因は？塾・予備校との比較か？今後分析を。</li> <li>国語、英語の授業で、ものの見方を深める工夫を</li> <li>総合的学習にしっかり取り組み、自分自身を語り、書ける生徒の育成が大学進学にもつながる</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力を伸ばす	(1) 言語活動、双方向の授業 (2) 思考力と実践力の育成 (2) 主体性と意欲・自信を育む工夫 (4) 理解しやすい授業 (5) 家庭学習の定着を目指した組織的な仕組みと仕掛け (6) 「大学入試制度改革」に対する準備と対策	(1) A.L の要素を取り込んだ授業づくりを推進し、「学び合いの文化」を学校全体で醸成する。 (2) 「オープンクエスト」をキーワードに教科で発問の工夫のためのOJTを活発に行う (3) 「スモールステップ」を活用した教材や授業計画の工夫を行い、タイムリーに生徒に「激励と称賛」をおこなう (4) 「ICTの活用」推進 (5) 「テンミニッツ」、学習セミナー、外部模試分析会を計画的に実施 1年夏休み、3年ゼロ学期の重要性を学校全体で共有する仕掛け (6) 論述する力、表現する力を鍛える授業研究の推進	(1) 研究開発室及び学校経営推進費支援による PT (仮称) がリードした授業研究会を年間3回実施 (4月、9月、11月) (2) 教科会議の充実 月2回実施 (3) 学校経営推進費支援による PT (仮称) 主導により、授業相互見学週間を実施し発見シートをまとめ全体化 ・全員実施 (4) 利活用率 70% (60%) と効果的な活用実践の共有 (5) 家庭学習時間平均 90分以上 (6) 学習会の実施 ・授業改善教員研修を2回以上実施 ・公開授業3回以上実施	(1) 研究授業 5/13(土)、12/1(金)、2/9(金) (○) (2) 教科会議 各教科で月2回実施(2週間に1回)実施 (3) 授業相互見学実施率 80% (△) (4) ICT 機器の活用 利活用率 70% (○) ・プロジェクトを全 HR 教室に設置 説明会参加者約 40 名 (5) 家庭学習時間平均 (H29.4) 1年 110分 2年 53分 3年 111分 ⇒(H30.2) 2年 97分 (○) (6) 入試制度改革に関する学習会 2月13日(火)実施(テーマは以下の通り) ①寝屋高生の学力はいかなるものなのか 各教科の基礎力はあるのか ②寝屋高生の学習スタイルはいかなるものなのか 思考力・主体性はあるのか ・公開授業 5・12・2月実施 (○)
21世紀型能力の育成	(1) 基本的人間力の鍛錬 (2) 文化的・芸術的活動や読書活動の推進 (3) コミュニケーション能力の育成 (4) 社会貢献・ボランティア活動の積極的参加推奨 (5) 様々な体験活動を通じた人権感覚と国際感覚の涵養	(1) 挨拶、時間、清掃、感謝、貢献について日常的に全職員で指導に当たる。 (2) 2年生の芸術鑑賞、3年生の文楽鑑賞のほかに授業や部活動を通してコンテストに参加を積極的に呼び掛け、機会を多く設定する。文芸Gが中心となった読書マラソンや各種コンテストにチャレンジを呼び掛ける (3) 学校経営推進費支援機器を活用しプレゼンや発表の機会を校内外で実施 (4) 寝屋川市や市内中学校、福祉施設など外部との連携交流推進 (5) 2年人権探究学習の定着と企画交流室が中心となった組織的な国際交流活動の充実 人権週間と国際交流ウィークを新設	※ () 内は H28 年度 (1) 全職員で実施 (2) 全員対象の読書コンクール 読書マラソン達成者 10人(6) (3) 修学旅行プレゼン、人権探究学習、英語コンテスト実施 (4) 寝屋川市や小・中学校との様々な連携 ・様々な形で全員が実施 (5) 人権教育の評価 肯定 88% (85%)	(1) 全職員で指導実施 (○) (2) 校内学芸コンクールの実施 代表が大阪府コンクールで「佳作」 読書マラソン 達成者 12人 (○) (3) ・修学旅行報告プレゼンをベトナム領事館で英語・日本語で実施 ・1・2年生英語スピーチコンテスト全員参加。 2年生はプレゼン形式で実施。人権探究学習テーマ別で実施 (○) (4) ・寝屋川市若者会議(参加 65 人中生徒 18 人教員 2 人参加)、小学生向け理科教室、生徒がリーダー役になり実施。・スポーツテスト交流は、日程が合わず未実施。次年度以降形式等工夫し実施することを確認。・その他清掃活動や、部単位の活動等で多数実施 (○) (5) ・肯定 76% (△)
学校力のパワーアップ	(1) 目標や成果の共有と協働に努め、職員の一体化をはかる (2) PDCA サイクルによる改善志向の定着 (3) パワーアップ研修の充実 (4) 教育相談機能の充実 (5) 学校広報と情報発信機能の充実 (6) 校務処理システムの整備と充実	(1) 前期後期初めの校長ビジョンの提示 個人個人のアクションプランを提出 (2) 自己申告票や授業振り返りシートの組織的、時期定な一斉活用 (3) 年間4つのテーマで実施 ・人権教育 ・授業研究 ・生徒指導、教育相談 ・部活動指導 (4) 新たなポスト(担当総括)の活用と組織的な取り組みと対応 (5) 学校案内のリニューアル 学校目標の上方修正や生徒事情の変化を反映 (6) 教務関係だけでなく一元化に	※ () 内は H28 年度 (1) 職員自己診断結果 肯定 75% (71%) (2) 職員自己診断結果 肯定 70% (64%) (3) 実施回数と振り返り ・5回以上 (4) 職員自己診断結果 肯定 85% (84%) 生徒自己診断結果 肯定 80% (77%) (5) 生徒会など生徒を活用し、リニューアルする (6) 担任業務の簡素化、合理化 ・担任時間外 10%減	(1) 肯定 74% (△) (2) 肯定 67% (△) (3) ・授業研究3回、新しい入試制度にかかる勉強会、教育相談にかかる研修2回、生徒の模試結果分析にかかる研究会学年ごと複数回等 (◎) (4) 職員 肯定 81% (△) 生徒 肯定 75% (△) (5) 学校案内は、目標や生徒事情の変化に対応したが、生徒を活用していない。 (△) (6) 担任の時間外 7%減 (△)